

金融危機による

不況対策に環境投資を



問 本町の商業者は、年々年初に向かい金融機関の融資姿勢が一段と厳格化することを心配している。

今一番の対策を望むことは、雇用の確保のため「仕事が欲しい」この声は圧倒的に強い。そこで、環境宣言をおこなった町として真の脱炭素社会を目指す新しい町づくりと公共事業を組み合わせた幕別ニューディール政策を計画実施し景気浮揚策をすること。

以下3点について町長の考え方を伺う。

①景気浮揚策として大規模太陽光供給用発電事業に町は産業クラスターの研究会を設置して積極的に取り組むこと。

そして次世代ソーラーパークを造るといふ企業おこしをソーラーメーカーや町内電気事業者と共同で行うことに町は先頭に立って進めること。

②幕別跨線橋の開通で平和通りの車交通は激減するの四車線の一部を改修して幕別大通りや駅前通りを自転車でもスローに移動が出来る通りに改修しCO2削減の為に自転車振興の街に作り変えて、人が消え、店が消え、車が消えた商店街に人の姿がとどまるようにすること。

③温室効果ガスを出さないで移動する街を。

新しい観光地となる魚道観察室を中心に札内と幕別を緑と水の回廊サイクリングロードを作り自然を眺め自転車で行ききできるような環境派の町長として実現を目指すこと。

町長

①太陽光発電などに関する研究や企業を核とした地域振興策については、環境宣言の理念にも沿い、経済対策や雇用対策の上でも重要と認識している。北海道電力を含む、国内

電力会社10社が加盟する電気事業連合会が、2020年度までに、全国30カ所で太陽光発電設備を建設する方針で、帯広市が誘致を模索している。本町も、担当が北電と接触している。まだまだ計画段階であり、今後の動向を見ながら、対応したい。

クラスターの研究会の立ち上げについても大事と思うが、今後、町としてどのような対応ができるか検討したい。

②平和通りは、隣接する小中学校の通学や公共施設利用者などの交通安全を考慮した場合、現在の道路構造、車道が2路線、中央分離帯、さらには自転車道、合計36メートルの幅員の道路であり、これを改修することは難しい。

商店街を含む日常的利便施設や公共施設を自転車道などで機能的にネットワークが図れるよう配慮すること



幕別跨線橋の開通で交通量の減少が予想される平和通り

とは、商店街の活性化と安全安心な町づくりには、大変重要なことと認識している。幕別本通りや駅前通りは、自転車及び歩道としての一定の整備は終えているが、今後の状況を見極め、活性化につながる町づくりを進めたい。

③平成3年から平成7年にかけて、幕別札内線交通安全施設整備事業において、自転車・歩道の中で緑の回廊としての道路植栽を含めた整備を行い、同時にネットワーク関連施設の休息ス

ペースとして「四季の水辺公園」4カ所をポケットパークとして整備を行った。十勝川右岸築堤ルートについては、札内川河川緑地のゴルフ場施設の利用促進として、開発建設部の事業により、札内橋上流から十勝中央大橋までの間の整備がなされるなど、旧途別川のルートや十勝川の相川地区は未整備となっているが、一定のネットワークは構成され、通学や散策、ウォーキングなど多くの方々に利用されている。